

発達障害と子どもたち — これからの特別支援教育 —

播磨町教育講演会

播磨町では、本年度より本格的に特別支援教育に取り組んでいます。8月17日(土)に「発達障害と子どもたち — これからの特別支援教育 —」目白大学教授)に講演をいただきました。2時間あまりの講演でしたが、耳を傾けました。



▶相談機関

教育委員会学校教育グループ	☎079(435)0545
兵庫県立特別支援教育センター	☎078(222)3604
兵庫県中央こども家庭センター	☎078(923)9966
ひょうご発達障害支援センター	☎0792(54)3601
北部子育て支援センター	☎078(944)0717
南部子育て支援センター	☎079(437)4188

という演題で、山崎晃資先生(精神科医・播磨町の学校園の先生方全員が熱心に

特別支援教育って

AD/HD(注意欠陥/多動性障害)は、欧米では100年以上前から問題として言われてきました。1845年にハインリッヒ・ホフマンが書いた「もじゃもじゃペーター」の絵本の第8話「したばたフィリップのお話」には、

①食事のときに足をぶらぶらさせて落ち着かず、②挙句の果てに食卓を無茶苦茶にして、③パパとママに叱られるフィリップの話が載っています。

皆さんは、このような子どもをどう思われるでしょうか。しつげのできていない子どもだと思われるでしょうか、それとも、発達障害を疑われるでしょうか。例えば、発達障害の一つであるAD/HDの子どものは、行儀が悪い、やる気がないなどと評価され、厳しく叱られたり、体罰を受けたりすることがあります。その結果、子ども自身の



”いわゆる”軽度発達障害とは

明確な規定はありませんが、IQ(知能指数)が正常範囲内にある発達障害です。それゆえに、日常生活における本人の困難さや周囲の無理解・誤解は想像以上です。そして幼児期や児童期に気付かれることが少ないため、反社会的行動・衝動性があらわになってから、過度に問題視されることが多いのです。この”いわゆる”軽度発達障害には、高機能自閉症障害、アスペルガー症候群、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)などがあ

AD/HDの子どもの行動に移す前に考えることが苦手で、次のような特徴的行動をします

- ①危険なことを平気でする
- ②他の子どもに乗せられて危ないことをやらされてしまい、自分だけ捕まる
- ③事故に遭うことが多い
- ④列に並んで待つことができにくい
- ⑤授業中、突然大声で話し出してしまう
- ⑥他の人や物に勝手に触ってしまうことがある
- ⑦論理的な話ができてにくい
- ⑧グループで行動することが苦手である
- ⑨正しい順序で物事を遂行することができにくい
- ⑩欲求不満の耐性が低く、突然キレることがある

自己評価は低下し、反抗や乱暴、こだわりなどを示すようになります。また、保護者は、しつげのできていない親だとか、親がなっていないからだとか批判され、肩身の狭い思いをすることが多いようです。

AD/HDの臨床症状としては、2・3歳頃から落ち着きのなさ、なれなれしき、かんしゃくなどで気付かれることがあります。学齢期になると学業成績不良、気分の不安定、自分勝手な行動、不器用などが目立ってきます。視覚・運動系の不統合、脳波異常、神経学的微細徴候などが認められたりすることもあります。しかし、障害を正しく理解し、適切な医療的ケアや対応をすれば、このような行動は減ります。AD/HDの場合、協調運動の訓練な

特別支援教育と適正就学

ります。

2003年、文部科学省は、学習面や行動面で著しい困難を示す者は63%であると発表しました。つまりクラスに2〜3人いることになります。この事実は従来から言われていた市町村段階での医療機関調査とほぼ同じような結果です。5歳頃になるとかなり正確に診断できるようになります。しかし、特別支援教育とは、いわゆる”軽度発達障害”の子どものためのだけの教育ではありません。子ども一人ひとりに応じた教育や支援をするという考え方がその根底にあります。学校園では、校内委員会を設け、コーディネーターを中心に、どのような支援をすることがその子のためになるのかを考え、保護者の皆さんと一緒に支援計画をつくり、実践しています。同時に家庭や保育園、幼稚園では、なるべく早く障害を発見して、早期に障害に応じた療育をすることが望まれます。また就学に關しては、小学校や養護学校(特別支援学校)など、どこで、どのような方法で、子どもが生き生きと学習活動ができるのか、しっかりと考えていくことが大切です。適正就学でなかったら苦労するのは子どもなのですから。

▼問い合わせ 学校教育グループ ☎079(435)0545

どのようにしてその機能的成熟が促進されるかは、8・9歳から14・15歳頃までには行動のコントロールが可能となる例が多いのです。また、薬を使う療法もあります。

特別支援教育とは、あらゆる障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行おうとするものです。一番、困って苦しんでいるのは、親でも先生でも友達でもありません。その子自身なのです。特別支援教育とは、子どもが困らなくていいように、苦しまなくていいように、一人ひとりに応じた適切な支援をしていこうとするものです。



軽度とはあくまで知的障害が軽度、もしくは存在しないということで、障害そのものが軽いわけではありません。ただ、軽度が障害の程度を示すとの主張もあり、その意味するところは共通認識されていません。そのため、文部科学省は2007年3月15日、「軽度発達障害」という用語は使用しないことを表明しました。

AD/HDは、「注意欠陥/多動性障害」と訳されていますが、注意に欠陥があるわけではありません。注意を持続したり、集中をコントロールしたりすることが本人にとって難しいという障害です。思いついたら後先のことを考えずに行動してしまうという障害です。また片付けが苦手で、部屋の中が乱雑なことが多いです。しかし子どもの場合、多かれ少なかれ、そのような特性は持っています。AD/HDの診断は精神科医が行います。

この夏休み、どの部活も熱い汗を流し、いろいろな場面で力を尽くしている。

7月、吹奏楽部は東播大会でグランプリを受賞し、8月の県大会でも金賞をとる快挙。また、陸上競技部3年生、橋岡省吾君は男子共通1500円で全国大会に出場した。毎日毎日、どんな日もたんたんと走る姿をよく見掛けた。持っている力を努力で確固たるものにしていったのであろう。

…今年の夏休み：

8月も終わりだと言っのにまだ「つくつくぼうし」の鳴き声を聞けない。暑い残暑となったが、生徒たちの日焼けした顔はしっかりと輝いている。



▲練習の成果をすべて出して大会に挑む

期末考査が終わり、待ちに待った球技大会も、あいにくの雨。それでも決行されると天候などもう関係なく、みんな気合を入れて試合に挑みました。

台風の影響で延長になりながらも、二日目を迎えた朝は、前日の雨が嘘のように止みました。この日は、各クラス、優勝が決まる日でもあったので一段とやる気が増したし、みんなからの気迫がとても感じられました。女子のバスケットボールは体育館で行われていたので蒸し暑さ

と、やる気で熱かったです(笑) 男子のソフトボールも汗だくになりながらも頑張りました。どうなることかと心配されたけど、楽しく出来てよかったです。



▲ナイスシュート!!



播磨小学校では、ここ数年、各学期の終業式に1年生から6年生まで、それぞれ音読を披露し合っています。

7月20日(金)、1学期の終業式では1年生も初めて音読を披露。作品は、まど・みちおさんの『キュウリさん』。

「キュウリさん いくつになったの？」

「きゅうり」

「いくつおくらったの？」

「きゅうり」…

男の子と女の子が、掛け合う



▲さあ、みんな聞いてね

ように読んでいきました。

4月からひらがなを勉強して、どんどん読むことが楽しくなってきた1年生ですが、さすがに大きな体育館での音読は、緊張気味。ドキドキと、鼓動が聞こえてきそうでした。

でも、読み終わったあとは、とっても満足げな顔。「よーし、2学期もがんばるぞー！」「いい1学期の締めくくりができました。」



▲「おーい」呼びかけるように…いろいろな読み方にも挑戦

役場住民グループのお世話で、初めて田植えをする機会を得た子どもたち。育苗箱からきれいに育てられた若草色の苗を一つかみずつもらい、恐る恐る水田へ。田んぼのぬかるんだ土に足を取られながらも、一生懸命に苗を植えていきました。後は、秋の稲刈り体験を楽しみに待つばかり。

子どもの感想

「最初、足をつけた時、ぬるぬるしていたから、すぐ飛び出た。こんな所に足をつけるのは初めてだからドキドキした。2回目の挑戦。」
「スポツ」もう、入れた。両方の足も入れた。奥の方に入っていくと、だんだん田んぼは、温かくなって、気持ちよくなって、楽しくなってきた。初めての田植え、楽しかった！

▲貴重な体験をさせてもらいました



夏祭り楽しいなあ！

蓮池幼稚園

野添コミセン夏まつりが蓮池小学校の校庭でありました。浴衣や甚平を着て家族で参加しました。音楽が鳴り響いたり、友達の浴衣姿を見たりして、楽しいお祭り雰囲気子どもたちはとてもうれしそう。また、カキ氷やたこやき、輪投げなどのお店には、園児たちも並んで買う姿がありました。蓮池幼稚園児が踊る番になると、みんなで大きな輪になり、「ドラえもん音頭」と「はりま音頭」をたくさんの人に見てもらいました。地域で行われるこのような行事に参加して、みんなと触れ合い、踊ったり遊んだりする体験が、楽しい思い出となり、子どもたちの心にいつまでも残っていくことでしょう。



みんなで輪になって
▼踊ったよ！



▶浴衣を着て
かわいらしさ倍増

きゃんぱすだより

あなたに はつタツチ!

リレーエッセー⑩

何かの縁…に感謝

私のふる里は、ふくで有名な下関。海が、きれいで魚介類が豊富。「お寿司」おいしいです。よ、
今年、結婚十年目を迎えました。播磨町に来てからはもう少し長くなります。
この度、エッセイをハトタツチさせて頂いた理由は？
一つ目は、結婚10年目の節目にこの様なお話を頂いたのも『何かの縁』…なのかな？と感じたからです。
『何かの縁』…この十数年の間に沢山の方と出会う事ができました。
十数年前、誰も知り合いない私は、当時働かせて頂いていた先で、とても親切にして頂きました。経営者の方をはじめ、

共に働いた方々を通じ、本当に多くのことを学びました。今の生活があるのも、そこでの出会いがあったからこそ。心から感謝しています。
今の生活での感謝…まずは、大切な家族。主人とかわいい2人の息子。毎日楽しく生活しています。
主人の両親…年々あつかましくなる嫁をいつも優しく受け入れてくれます。
友人、知人…長男と通った子育てサークルや幼稚園などで出会った方々、今でも繋がっている大切な出会いです。
近所のお母さん方…面白いお話で気分転換しています♪
そして今…次男の幼稚園生活を通じ、またまた素敵なお母さん方と出会っているんですよ。



大霜 紀恵さん
(野添)

自己PR 雑貨屋さんを見てまわるのが好きで、特に味のあるものに惹かれます。Hand madeも楽しんでいます♪

ん方と出会っているんですよ。
失敗や勘違いは日常茶飯事！(笑)子どもはツツ込まれます(汗)後悔や反省のしつばなし。こんな私にも…これから先も『何かの縁』が続きますように。今年の1月に実父が他界しました。
入院先で迎えた両親の42回目の結婚記念日にお祝いのメッセージとともに精一杯感謝の気持ちを伝えることができました。感謝の気持ちは機会があるときに伝えておいた方がよかったです。と思います。
そして、エッセイをさせて頂く決心をした二つ目の理由は「この町に来て出会った人達に感謝の気持ちを伝えるいい機会かな…」と感じたからです。ありがとうございます。

ゴーヤにチャレンジ

播磨保育園

この夏、「ゴーヤ」作りに挑戦しました。毎朝水やりをしたり、つるが伸びてくるとビニールひもでネットを作ったりして、ゴーヤが出来るのを楽しみに世話をしていました。
ある日、小さなゴーヤがぶら下がっているのを見つけると、「赤ちゃんゴーヤだ！みてみて」と大喜びでした。大きくなった「ゴーヤを収穫すると「ごぼごぼ。でもいたくないなあ」半分に切ると「アロエみたいなおいがするな」「おなかにはフワフワでわたみたいや」給食に「ゴーヤが入っていると「初めて食べたけどおいしいな」とパクパク食べていました。自分たちでつくった「ゴーヤは苦くないようです。」



▲こんなにたくさん なったよ！

その日の降園の時には、「今日「ゴーヤ食べたよ!!」とお母さんに得意げに話す子どもの声があちこちから聞こえてきました。



このコーナーに登場して下さる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画グループ



▲ふるさとの川を美しく

さわやかクリーン隊

代表者 吉本 榮策さん

グループのモットーは？
いつでも、誰でも、参加できます。自主ボランティアで趣旨に賛同される方の集まりです。参加など自由で拘束いたしません。

最近の話題など

今年初めの清掃の際、喜瀬川上流(土山自治会)の方が通りがかり、私どもも年1度の清掃を去年末に2度目の清掃を行ったとのことでありましたので、今までは、雨の日の翌日は、川上からのごみなどがひどかったのですが、今年は大いに期待することができると隊員一同、春から喜んでいきます。
なお、各月の清掃予定日は、播磨町商工会の「はりまナビ」の掲示板「のご案内」をいただいております。
また、トラックにてゴミを運び込みました際に、リサイクルセンターの皆さんに、温かくそして快く受け入れていただきましたこと本当にありがとうございます。

活動の内容

まず喜瀬川をきれいに。一応現在のところ城橋の上(堰)から大中橋までの範囲。さらに、メンバーが増えれば範囲を広めたいのと、蓮池の清掃も行いたいと思っています。(現在の隊員約30人)